11) 働く女性の日常生活とソーシャルサポート

千葉大学看護学部
茅島　江子　工藤　美子　前原　澄子

働いている女性は仕事をしているために、日常の家庭生活は時間的制約があり、家庭と職場の往復で地域の人と声を交わすこともなく、孤独な毎日を送っているといわれている。本研究は、働く女性の日常生活とソーシャルサポートの現状およびそれらに対する満足度から日常生活の実態を探り、働く女性の問題点と社会・企業の果たす役割を明らかにすることを目的に行なった。

1. 研究方法

関東・関西の病院5施設に分娩後入院中の褥婦とその夫および関東・東北の2企業の男・女職員に労働状況、母性保護制度やサービスの認知と利用、日常生活時間とその満足度およびソーシャルサポートの程度と満足度についてアンケート調査した。対象は、有職既婚女性503名、無職既婚女性629名、有職未婚女性573名の1,704名で、各群の割合はそれぞれ29.5％、39.6％、33.6％とほぼ同率であった（表1）。平均年齢は有職既婚女性が34.8歳、無職既婚女性が29.2歳、有職未婚女性24.5歳と有職既婚女性の年齢が最も高かった。

2. 結果および考察

1）平日の生活時間

図1に平日の生活時間を示した。無職既婚女性は仕事・通勤以外の生活時間はすべて長かった。有職の既婚女性と未婚女性で比較すると、睡眠時間は未婚女性が6.3時間で既婚女性の6.8時間よりも短く、仕事時間は、未婚女性が9.3時間で既婚女性の8時間よりも長く、通勤時間も未婚女性が既婚女性よりも長かった。家事時間は既婚女性が3.0時間で未婚女性の1.1時間よりも長く、既婚女性では育児時間が3.3時間であった。趣味と休養の時間は有職の未婚女性・既婚女性ともに無職既婚女性よりも短かった。

2）平日の生活時間に対する満足度

図2に平日の生活時間に対する満足度を示した。無職既婚女性は、生活時間に対する満足度が3以上と高かった。有職では未婚女性が既婚女性よりも睡眠、仕事、通勤の満足度が低く、趣味と休養の時間の満足度は未婚・既婚ともに低く有意差はなかった。これらのことから、有職未婚女性は男性並の仕事をしており、有職既婚女性は仕事と通勤の時間が短い分、家事・育児時間が長く、その結果いずれも平日の趣味や休養の時間が短くゆとりのない生活を送っていると考えられる。

3）休日の生活時間

図3に休日の生活時間を示した。睡眠時間は、平日とは逆に有職未婚女性が8.5時間と最も長く、家事時間は短く、趣味と休養の時間が他の群に比べて長く、特に趣味の時間は有職既婚女性の約2倍であった。これに対して、有職既婚女性では家事や育児の時間が長く、趣味や休養の時間が最も短くなっていた。これを有職既婚女性とその夫で比較すると、女性の方が休日でも家事・育児時間が約2倍長く、趣味と休養の時間がそれぞれ1時間短くなっていた。

4）休日の生活時間に対する満足度

図4に休日の生活時間に対する満足度を示した。有職・無職ともに各時間の満足度は3以上で平日に比べて満足度が高かった。しかし、有職既婚女性はその他の群よりも睡眠、家事、趣味および休養で有意に満足度が低かった。これらのことから、有職未婚女性は休日には平日のゆとりのない生活から開放されて、趣味や休養の時間を十分確保しているのに対して、有職既婚女性は休日も家事や育児の負担がかかり、リフレッシュするだけの時間を確保しにくい状況にあると考えられる。

5）実際的援助の程度

図5に実際的援助の程度を示した。有職、無職ともに、既婚者は夫と実の親からの援助が最も多いが、有職既婚女性は無職既婚女性よりも実の親、兄弟・姉妹、近所の人からの援助が少なく、子どもからの援助が多かった。

6）実際的援助に対する満足度

図6に実際的援助に対する満足度を示した。有職・無職ともに既婚者は実の親からの援助に対する満足度が最も高くなっているが、有職既婚女性は無職既婚女性よりも夫、実の親、子どもの援助に対する満足度が低かった。これらのことから、有職既婚女性は日頃仕事や家事・育児に忙しいために生活に余裕がなく、夫、親および子どもなど身近な人からの援助への期待が大きく、そのため援助があっても満足度が低くなっていると考えられる。

7）精神的援助の程度

図7に精神的援助の程度を示した。有職・無職と

もに既婚者は夫と実の親からの援助が多くなっているが、有職既婚女性は無職既婚女性よりも夫、実の親、近所の人および医療関係者の援助が少なく、有職未婚女性よりも友人の援助が少なかった。

8）精神的援助に対する満足度

図8に精神的援助に対する満足度を示した。有職・無職ともに既婚者は夫と実の親からの援助に対する満足度が高く、有職未婚女性は友人と職場の人からの援助に対する満足度が高かった。しかし、有職既婚女性は無職既婚女性よりも夫、実の親、子ども、近所の人および医療関係者からの援助に対する満足度が低く、有職未婚女性よりも友人や職場の人からの援助に対する満足度が低かった。これらのことから、有職既婚女性は、家庭でも職場でも精神的援助を得られにくい状況にあると考えられる。

9）情報的援助の程度

図9に情報的援助の程度を示した。情報的援助は精神的援助と同様に有職既婚女性は無職既婚女性よりも夫、実の親および義理の親からの援助が少なく、有職未婚女性よりも友人や職場の人からの援助が少なくなっているが、子どもからの援助は無職既婚女性より多かった。

10）情報的援助に対する満足度

図10に情報的援助に対する満足度を示した。有職既婚女性は無職既婚女性よりも夫、近所の人および医療関係者からの援助に対する満足度が低く、有職未婚女性よりも友人、兄弟・姉妹および職場の人からの援助に対する満足度が低かった。このことから、有職既婚女性は情報的援助を家庭でも職場でも得られにくい状況にあると考えられる。

以上の結果から、有職既婚女性は平日は仕事、家事、育児時間に追われ、ソーシャルサポートも少ないことから趣味や休養の時間が短く、これらの満足度が低いこと。また、休日でも夫と比較して家事や育児の負担が大きく、趣味や休養の時間が短いことがわかった。これに対して有職未婚女性は仕事の時間が長く、男性と同様の働き方をしており、平日は趣味や休養の時間が少なく、これらに対する満足度も低くなっているが、ソーシャルサポートは友人や職場の人から得ており、満足度も高く、休日では家事や育児の負担が少ない分、趣味や休養にあてる時間が有職既婚女性よりもかなり長く、リフレッシュしていると考えられる。

そこで、働く女性のために社会や企業が果す役割について考えると、職業継続のための条件として、女性も男性も家族の理解・協力の割合が高いが、有職女性は就業時間の短縮の割合が高く、有職で子どものいる女性は保育所・学童保育の充実の割合が高いのに対して、有職で子どものいない女性は再雇用制度の割合が高くなっている。したがって、有職既婚女性の実際的援助としては、就業時間の短縮、夫や子どもの家事や育児への積極的参加、働いていても活用しやすい病院、保育所などの身近な施設の整備および共働きの夫婦が利用しやすい家事や育児のサポート源として近隣のボランティアの活用などが考えられる。一方、有職女性のなかで退職したいと思った割合は約6割で、その理由として、職場の人間関係が悪い。を挙げる者が多かった。母性保護の必要性の認識は、子どもを育てる世代では高いが、育て上げた世代では低いともいわれており、職場での人間関係が悪いことや、理解が少ないことが職業を継続する上でネックになっていると考えられる。したがって、職場での人間関係が良好に保て、結婚して働く女性への理解を深めるような職場での精神的援助が重要であると考える。また、働く女性は家族、地域および職場での情報的援助が少ない。したがって、働く女性が利用しやすい育児、医療情報など情報サービスの充実が必要であり、家庭や職場で問題が生じたときに、共に考えることが出来るような働く女性の自助グループづくりを積極的に行なっていく必要もあると考える。

表1．研究対象

	人　数	割合（%）
有職既婚女性	503	29.5
無職既婚女性	629	36.9
有職未婚女性	572	33.6
合　計	1,704	100.0

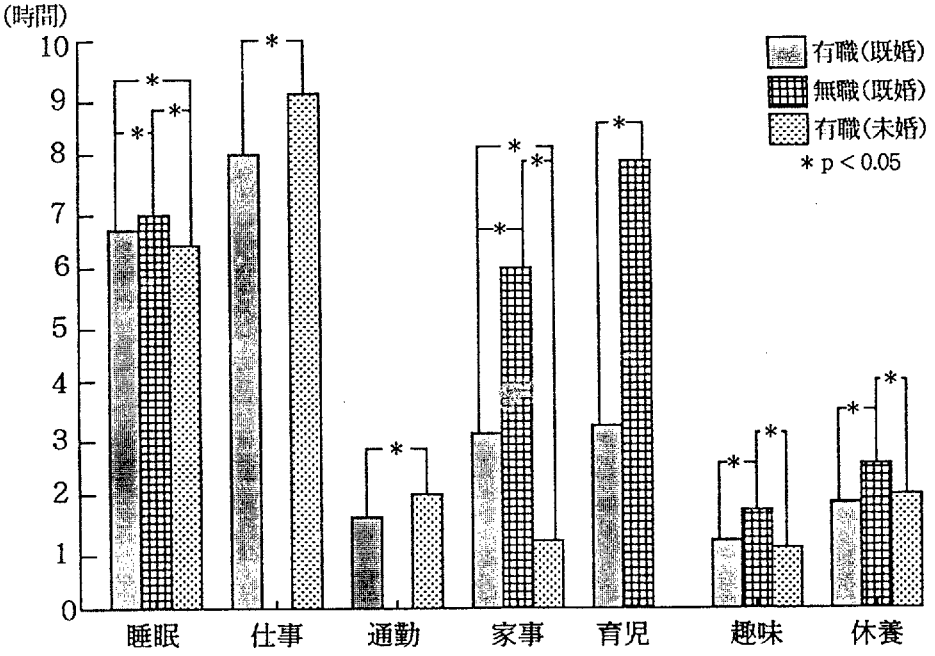

図1.　平日の生活時間

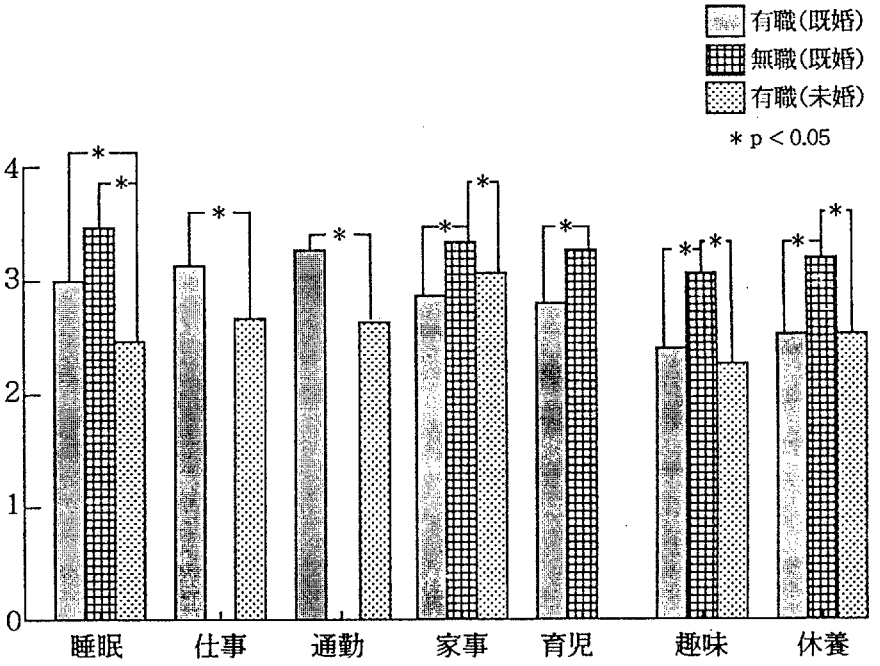

図2.　平日の生活時間に対する満足度

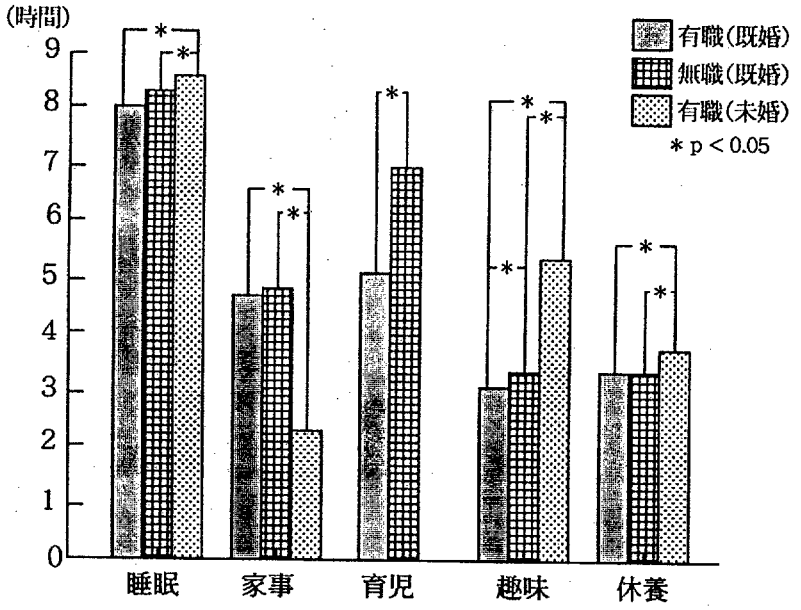

図3.　休日の生活時間

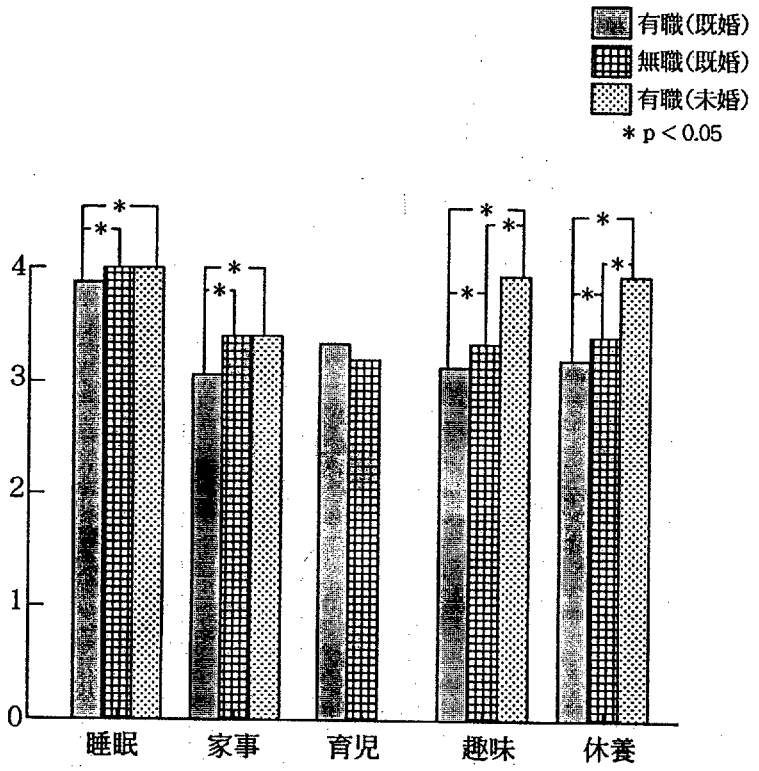

図4.　休日の生活時間に対する満足度

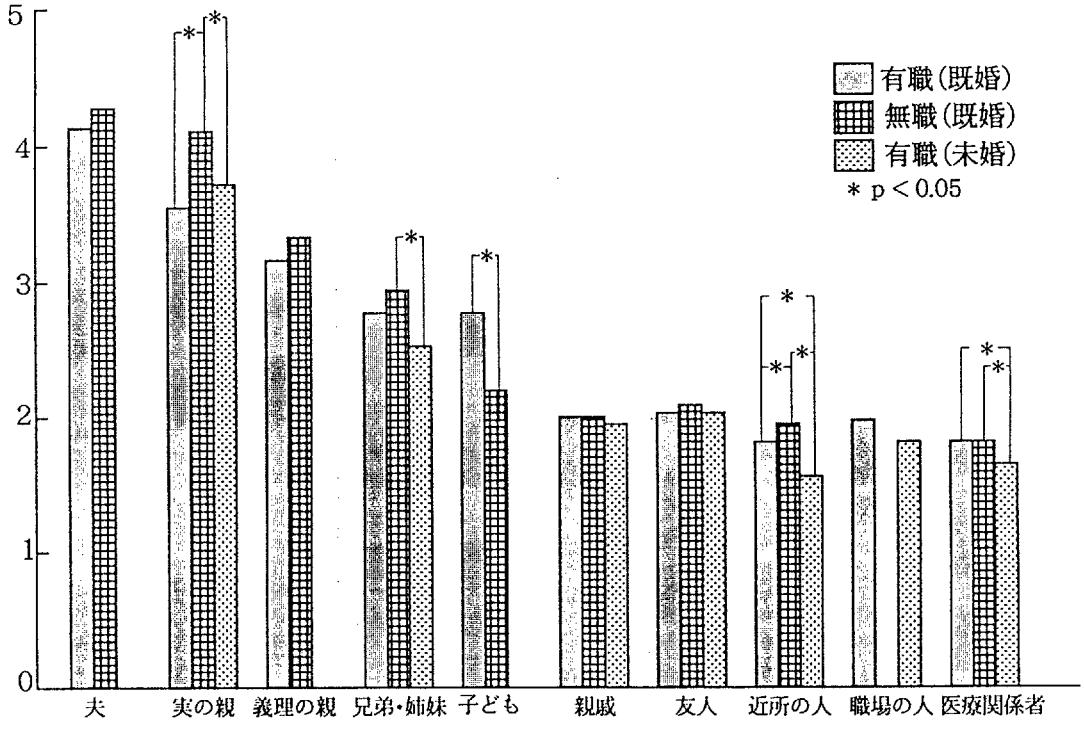

図5.　実際的援助の程度

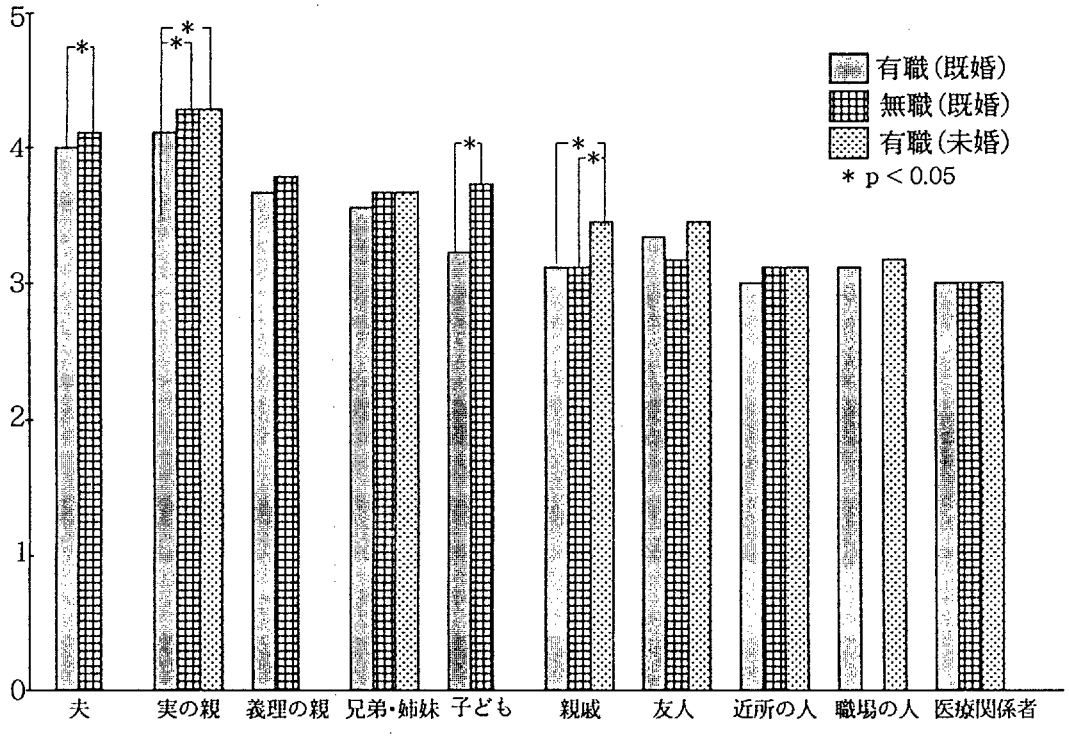

図6.　実際的援助に対する満足度

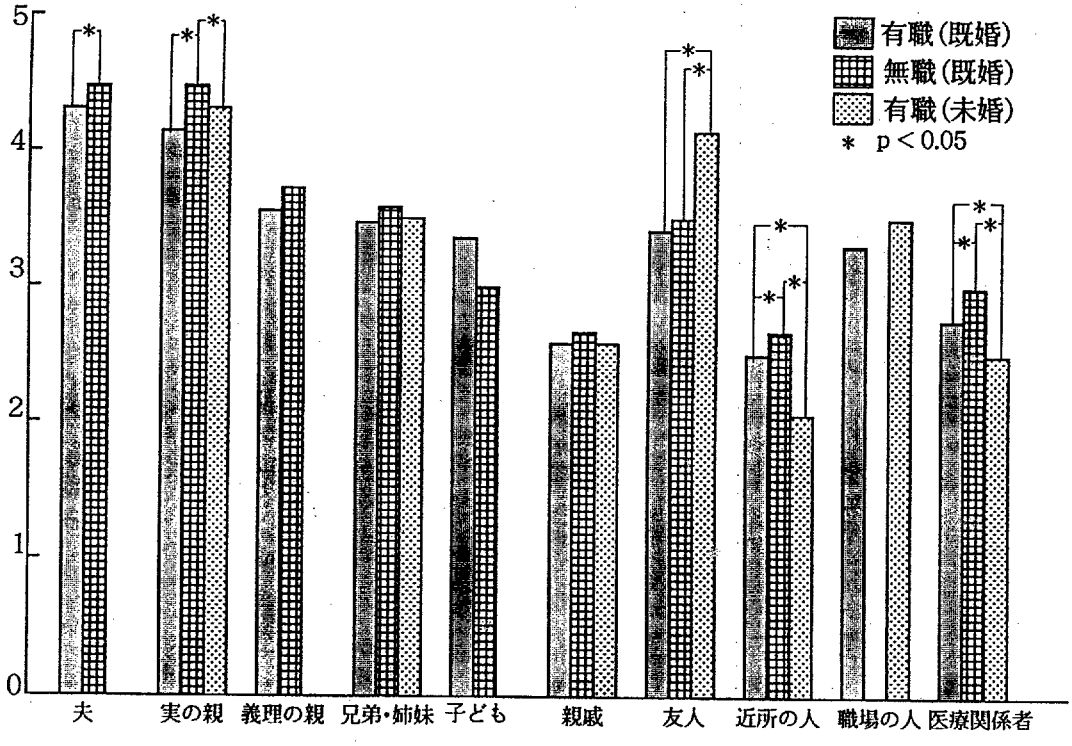

図7. 精神的援助の程度

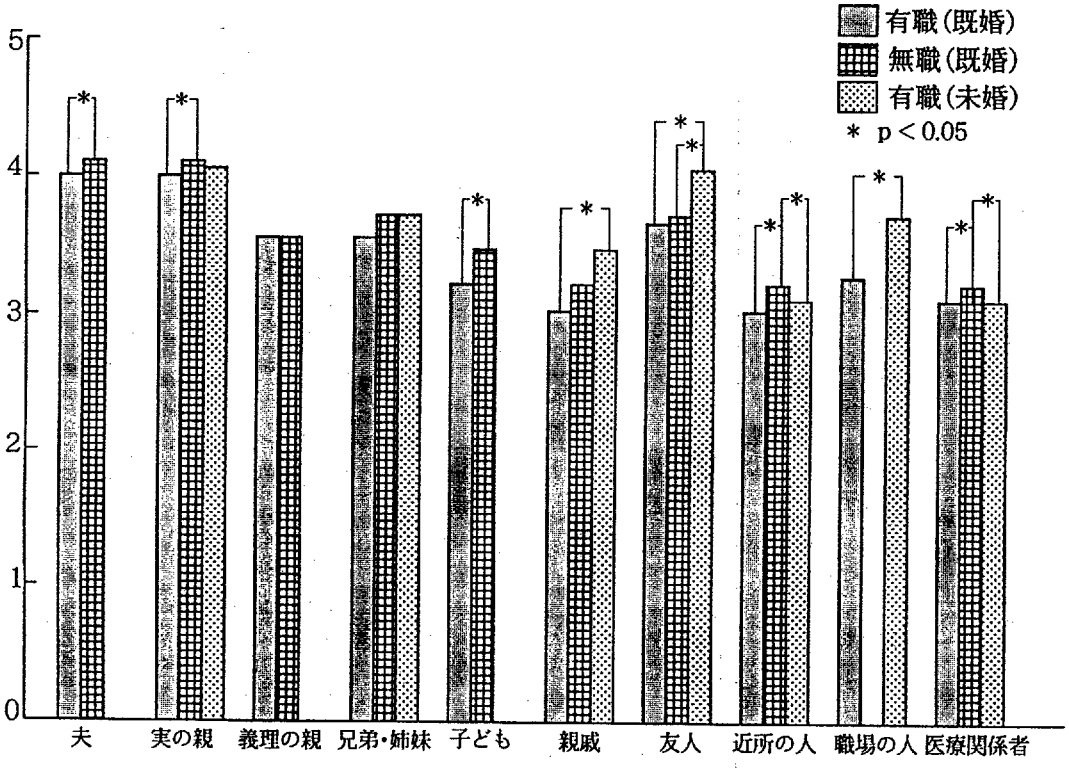

図8. 精神的援助に対する満足度

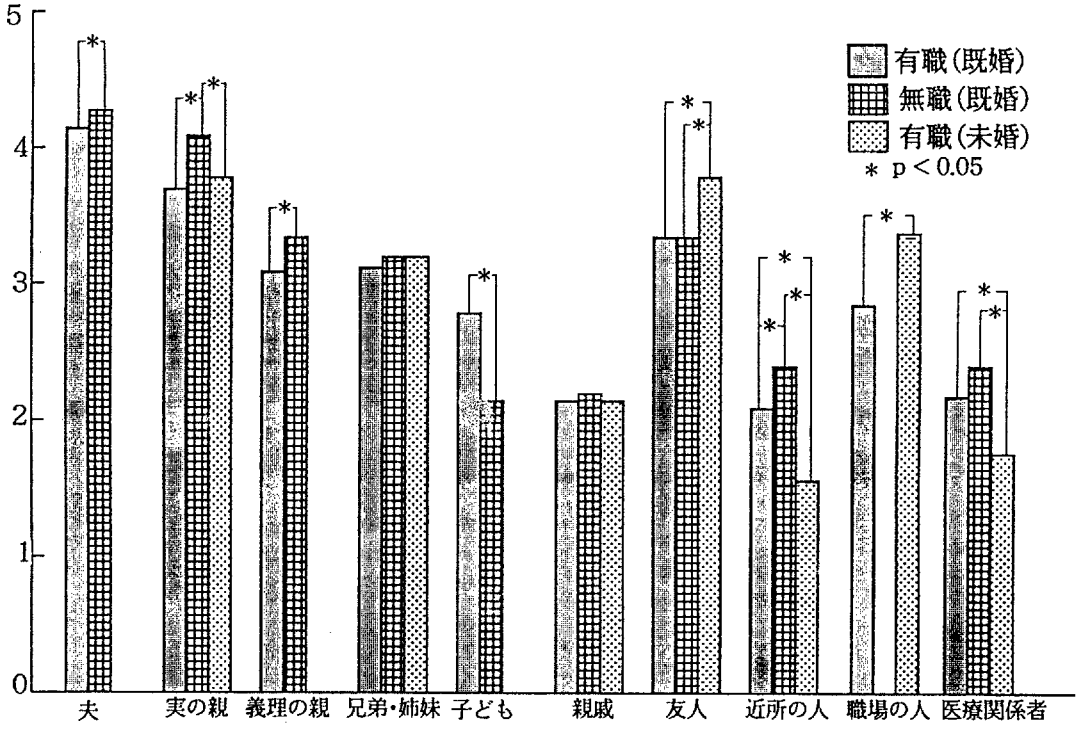

図9.　情報的援助の程度

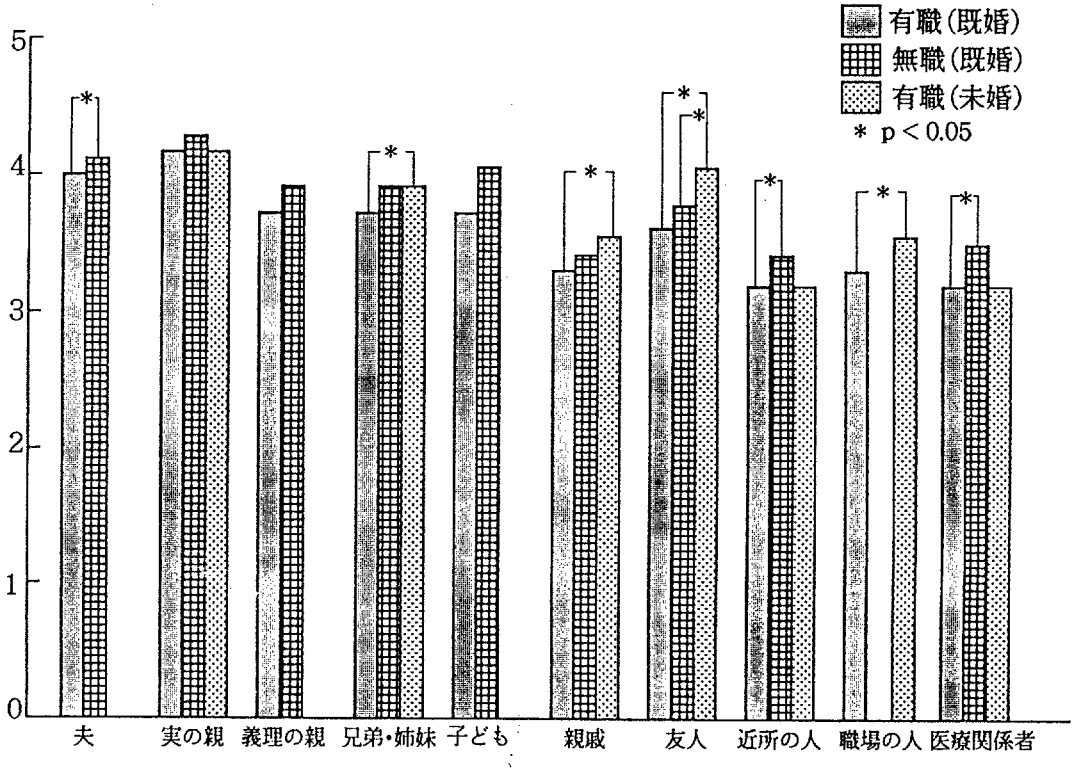

図10.　情報的援助に対する満足度

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

働いている女性は仕事をしているために、日常の家庭生活は時間的制約があり、家庭と職場の往復で地域の人と声を交わすこともなく、孤独な毎日を送っているといわれている。本研究は、働く女性の日常生活とソーシャルサポートの現状およびそれらに対する満足度から日常生活の実態を探り、働く女性の問題点と社会・企業の果たす役割を明らかにすることを目的に行なった。